

トラキチ諸君！ 覚悟して飛び込みたまえ。そして、せめて移動式の簡易シャワーを設置してもらおう。それに、ご近所の銭湯のご主人！拒まずに、入れてやってください。そして、せめて阪神優勝の当日と前日だけでも、雨が降らないよう祈念して、てるてる坊主をつるすことにします。

最終回：水の大切さ、伝えてください

このコーナーで連載してきました内容は、私の大学でも、ほぼ半年かけて講義します。90分授業で13週くらい、みっちりと教えます。

学生の間でも強い関心

自分で言うのもなんですが、学生間での人気は抜群です。たとえば、先日、私の講義について、学生による授業評価の結果が大学事務局から送られてきました。これは、123名の夜間コースの学生に対して行った授業の分でしたが、総合評価として、5点満点に対して、4.7点という、きわめて高い評価を学生からもらいました。

夜間コースの学生が高く評価してくれたことは、ことにうれしいものでした。かれらのほとんどは昼間、働いています。年齢も生活事情も千差万別の男女です。学生が本業ではないのです。そういう意味で、幅広く、社会の人びとに足しになったと感じています。

ただ、学生にとって、良いことばかりではありませんでした。数年まえのこと、まだ神戸が高度処理になっていなかった頃でした。4月か

らの講義でしたが、神戸の水道水は発ガン性が高いこと、ほとんどが淀川の水で、京都市民の分だけでも30万人分のうんこしつこが毎日流れてくることなどを、何週にもわたって話していました。

あるとき、富山から来て下宿していた女子学生が相談にきました。はじめの頃は水道水が飲めないだけだったが、だんだんと顔も洗えなくなり、最近では手も洗えなくなってしまうというのです。なんとか夏休みまでがんばり、富山の実家に帰省しました。しかし、夏休みが終わっても、神戸には戻りませんでした。結局、退学しました。

彼女が18歳まで飲んでいた富山の水道水は、立山の雪解け水や、湧水でできていたのです。抜群に安全で、おいしい水であったのです。ちなみに、富山市は今年から、なんと水道水をペットボトルにつめて販売しています。

命のつぎにだいじなこと

私はいろんな町の市民講座などでお話をしてきました。お話の後、共通して聞かせていただいた感想は、「いちばん身近で、命のつぎにだいじなことなのに、ほとんど知らなかった。ほかのみなさんにも、ぜひ知ってほしい。とにかく、帰ったら、まず家族みんなに話します。」というものです。

水の大切さを、まずは、近くの人に伝えてください。一滴の水をだいじにすること。そして、一滴の水の安全をだいじにすること。私も伝えつづけます。どんなに小さな集まりでもかまいません。どこへなりと、出前の注文うけたまわります。

【編集部注 この原稿は2003年当時のまま

掲載しています。】